

令和7年度

「運営に関する計画」

中間評価



咲洲みなみ小中一貫校

大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校

令和7年10月

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の現状と課題

現状と課題

● 生活指導面

- 本校の児童生徒は、比較的落ち着いて授業を受けることができておらず、規範意識も高く学校のきまりや校則を正しく守っている。（学校評価アンケートにおいて「学校のきまり／ルールやマナーを守っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、小学校で約 95%、中学校で約 95%。）
- 新たに不登校となる児童生徒の割合はわずかに増加傾向にある。

● 学力・体力面

- 学力については、各調査において多くの学年が市または府の平均点を下回っている。令和 6 年度の小学校学力経年調査における標準化得点・中学校チャレンジテストにおける対市平均比は以下の通りで、基礎学力の向上が喫緊の課題となっている。

3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
98.4	94.6	99.8	100.9	102.6	109.3	90.7

- 児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を保障すべく、一人一台端末をはじめとする ICT 機器を積極的に活用し、学習意欲の向上を図っている。
- 体力向上については、運動意欲と体力の向上を図る教科指導を行ってはいるが、中学生小、学生はともに低迷が続いている。また、日々の食育指導を通して、自らの体力への関心を高めるよう努めている。

● その他

- 本校の児童生徒は自己肯定感が低く、学校評価アンケートにおいて「自分には良いところがある」の質問に対し肯定的回答を示した割合は、小学生は約 82%（前年度約 80%）、中学生は約 68%（前年度約 59%）といまだ低い状態である。日々のあらゆる教育活動の中でこれを高めていく必要がある。
- 大阪市で 5 校目の施設一体型小中一貫校として、本校の特色をこれまで以上に打ち出し、全市に向けて発信していく必要がある。

2 学校運営の中期目標

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の学校評価アンケートで「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校85%、中学校75%以上とする。

本市目標 小学校 R6 84% R7 85% 中学校 R6 80% R7 82%
学校の状況 小学校 R6 85.7% 中学校 R6 71.1%

- 令和7年度の学校評価アンケートで「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校90%、中学校70%以上とする。

本市目標 小学校 R6 81.2% R7 77% 中学校 R6 79.3% R7 77%
学校の状況 小学校 R6 81.6% 中学校 R6 67.6%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点・中学校チャレンジテストにおいての対市平均比を3年～9年の全学年100以上とする。

学校の状況 R6

3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
98.4	94.6	99.8	100.9	102.6	109.3	90.7

- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、8項目すべてで全国平均を上回る。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の学校評価アンケートで「タブレットやPCを取り扱うことは楽しい」の質問に対する肯定的回答の割合を小学校96%、中学校90%以上とする。
(R06年度小学校98.8%、中学校76.8%)
- 令和7年度において、ゆとりの日については、昨年度よりも多く設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては3日以上設定する。
- 令和7年度末で年間図書館を利用した児童生徒の延べ人数を小学校10,000人、中学校1,000人以上とする。

3 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 小学校および中学校の年度末校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校、中学校ともに90%以上にする。
- 小学校および中学校の年度末校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校90%、中学校70%以上とする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

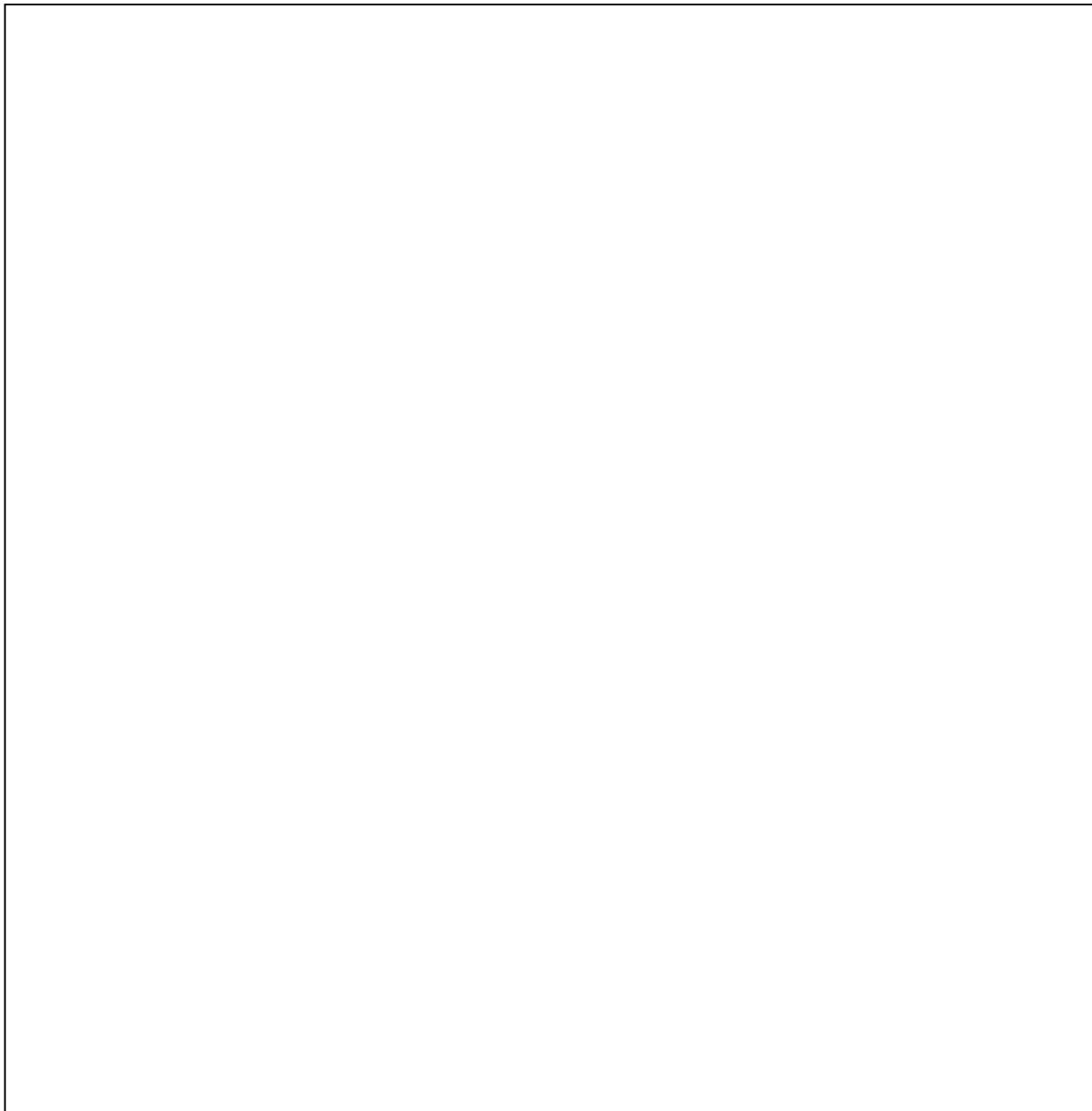
- 小学校および中学校の年度末校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合を小学校は80%、中学校は75%以上にする。
- 小学校および中学校の年度末校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合を小学校で85%以上、中学校で80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を55%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 授業日において、児童生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く)
- 年次有給休暇を5日以上取得する教職員の割合を100%にする。
- 学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校83%、中学校70%以上にする。
- 令和7年度末で年間図書館を利用した児童生徒の延べ人数を小学校10,000人、中学校1,000人以上とする。

4 本年度の自己評価結果の総括



(様式 2)

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none">● 小学校学力経年調査および中学校年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合を小学校、中学校ともに 90%以上にする。● 小学校学力経年調査および中学校の年度末校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校 90%、中学校 70%以上とする。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部) いじめ・不登校に関する共有を徹底するとともに、組織としての対応に努める。	B
指標 ➤ 小学校学力経年調査および中学校年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合を小学校、中学校ともに 90%以上にする。	
取組内容② 【2 豊かな心の育成】(人権教育委員会) 自尊感情を高めることができる取り組みを各学年で年間を通して実践する。	B
指標 ➤ 小学校学力経年調査および中学校の年度末校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校 90%、中学校 70%以上とする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①	1学期に実施した校内調査において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対し、小学校で97.0%、中学校で95.4%の児童生徒が最も肯定的な回答を示した。昨年度より肯定的な意見が増えた。 4/2に実施した生活指導研修会では、児童生徒の指導に関して確認を行った。また、小・中別でメンティー研修（生活指導等）を実施し、若手教員の対応力の向上に努めた。児童生徒理解については、4/4に特別支援全体会を開き、年度初めに児童生徒について共通理解を図った。今後も、防災リーダーと地域の方々と協力した地域合同防災訓練、人権教育実践報告会、年度末特別支援全体会等を予定しており、教職員の指導力・対応力の向上に努める。
今後への改善点	
①	日々の学校生活の中で、いじめ防止のための指導を継続して行うとともに、いじめ・不登校の未然防止や早期発見、適切な初期対応に努める。また、生活指導連絡シートやアンケートを活用し、児童生徒の共通理解を深める。 ② 昨年度に引き続き、小中一貫校全体の取り組みとして、系統たてた平和学習の実践のあり方について話をすすめているところである。戦争の悲惨さや生命の尊さなど、学習したことを他の学年と共有することで、互いの自尊感情を高めることにつながるのではないかと考えている。 小学校低学年では絵本を使って児童がわかりやすく学習できる工夫を、高学年では社会（歴史）で学習した後のより深めた学習を、中学校では調べ学習の発展形として文化発表会での発表を、それぞれ取り組んでいるところである。 単発にならず系統だった実践になるように、タテ・ヨコの連携を密にしていく。また引き続き、教育活動のあらゆる場面で、児童生徒の人権感覚を培うことも目標としていく。

(様式 2)

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査および中学校の年度末校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答をする児童生徒の割合を小学校は 57%、中学校は 38%以上にする。 小学校学力経年調査および中学校の年度末校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合を小学校で 85%以上、中学校で 80%以上にする。 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 55%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 小学校 誰一人取り残さない学力の向上】(研究推進委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が、互いに自分の考えを説明し合うことで、自らの考えを深め広げができるような授業を展開する。 漢字検定への取組を通して、国語の基礎学力向上を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答をする児童の割合を 57%以上にする。 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。 	B
<p>取組内容②【4 中学校 誰一人取り残さない学力の向上】(研究推進委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科において、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を展開する。 研究授業週間を設定し、「主体的・対話的で深い学び」の視点で参観・研究討議を行い、教員一人一人の授業力向上を図る。 英語検定への取組を通して、英語の基礎学力向上を図る。 	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 年度末校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 38%以上にする。 ➤ 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を 55%以上にする。 	
<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】（体育部、保健体育科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒が楽しみながら体力の向上を図ることのできる体育科・保健体育科の授業や体育的行事を展開することにより、運動意欲を喚起し運動習慣の定着に努める。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 小学校の学力向上において、指標となる学力経年調査はまだ実施されていない。第1回学校評価アンケートでは、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する4～6年児童の割合は約92.8%であった。今年度は研究教科を国語とし、児童の「表現する力」の育成に重点を置き取り組んでいる。令和5年度より進めてきた3年間の国語の校内研究のまとめを住之江区の教員研究発表会に向けて準備している。</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、小学校では、全教員が研究授業をするよう取組を進めている。積極的に授業を参観・研究討議を行うことにより、教員一人ひとりの授業力の向上に努めている。</p> <p>② 中学校の学力向上において、指標となる大阪市英語力調査については実施されたが、結果は未返却である。第1回学校評価アンケートでは、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合は約48%と目標値を上回った。</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各教科で取組も進めている。9月に行った研究授業週間では、教科の垣根を超えて、授業を参観・研究討議を行うことにより、教員一人ひとりの授業力の向上に努めた。</p> <p>③ 第1回学校評価アンケートにおいて、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的回答をした児童生徒については、小学校では約86%と目標値を上回っている。中学校では約78%とわずかに目標に達していない。今後、実施予定である体育的行事を通して、児童生徒の運動意欲の向上に取り組んでいく。</p> <p>小学校では実施予定であるスポーツ集会、縄跳び運動、かけあし週間などの活動を通して、児童生徒の運動意欲をさらに向上できるよう取り組んでいく。</p>	

今後への改善点	
<p>①② 学力向上については、小中ともに、基礎学力の定着と対話的な学習の推進に向けて、学年・教科でそれぞれの授業を見直すとともに、児童生徒が主体的に学習に向かうことができるよう、学習意欲の喚起に努めていく必要がある。</p> <p>③ 健やかな体の育成について、今後の体育的行事で仲間とともに取り組むことの意義や運動の楽しさについて考える機会を持ち、子どもの運動意欲の向上に働きかけていく。</p>	

(様式 2)

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く) 年次有給休暇を 5 日以上取得する教職員の割合を 100%以上にする。 令和 7 年度において、ゆとりの日については、昨年度よりも多く設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 3 日以上設定する。 学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校 83%、中学校 70%以上にする。 令和 7 年度末で年間図書館を利用した児童生徒の延べ人数を小学校 10,000 人、中学校 1,000 人以上とする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】(ICT 担当)</p> <p>ICT の推進を目指し、一人一台端末を活用した学習の機会を増やしながら、効果的・効率的に基礎学力の向上を進める。</p>	B
<p>指標</p> <p>➢ 授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く)</p>	B
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】(管理職)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務負担の均等化や業務の効率化、取組内容の見直し等を進めることにより、教職員の長時間勤務の改善と年休取得の推進に取り組む。 	B
<p>指標</p> <p>➢ 年次有給休暇を 5 日以上取得する教職員の割合を 100%にする。</p> <p>➢ ゆとりの日については、昨年度よりも多く設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 3 日以上設定する。</p>	B
<p>取組内容③【8 生涯学習の支援】(教務部、国語科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書委員会の活動や環境整備を進めることにより、児童生徒の読書への関心を高める。 	B

指標

- 学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合小学校 83%、中学校 70%以上にする。
- 令和 7 年度末で年間図書館を利用した児童生徒の延べ人数を小学校 10,000 人、中学校 1,000 人以上とする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 4 月から 7 月までの「授業日において、児童の 8 割以上が学習端末を活用した日数」は小学校で 29.6% 中学校で 9.4% と目標値より大きく下回っている。5 月から徐々に上がってきてているとはいえ昨年度と比べても活用率は低い。活用率が前年度より大きく下がった一因として、心の天気の入力の徹底ができていなかったように感じる。今後タブレットが毎日持ち帰りになるのでより積極的に児童がタブレットを使えるように指導していく必要がある。
- ② 年次休暇を 5 日以上取得する教職員の割合は 9 月末時点で 77% であった。また、教職員の年次休暇の取得状況は 9 月末時点で平均 7.4 日であった。
- ③ 読書については、第 1 回学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して肯定的に答える児童生徒の割合は、小学校で約 80.4%、中学校で約 62.3% と目標値を下回る結果であった。9 月末現在、小学校の図書室利用者数は 5792 人で中学校の図書室利用者数は 271 人であった。小学校では、10 月に「好きな本アンケート」を実施する予定である。また、小中ともに 11 月には読書月間を計画し、読書への関心をさらに高める機会を設ける。

今後への改善点

- ① タブレットを毎日持ち帰る上で、タブレットをより身近に活用するための手立てを考える必要がある。毎日の宿題や連絡帳をタブレット上で配布したり、長期休暇の課題をデジタルドリル、キャンパで出したりなど様々な活用方法を模索しながら行うことで児童生徒の基礎学力の向上に努める。
- ② 業務改善を図り、長時間勤務の縮減を進めていく。
- ③ メディア・リテラシーについても発達段階に応じて適切に指導していく必要がある。